

史料紹介と研究

奈良念仏寺所蔵の「開化天皇陵」関係絵図

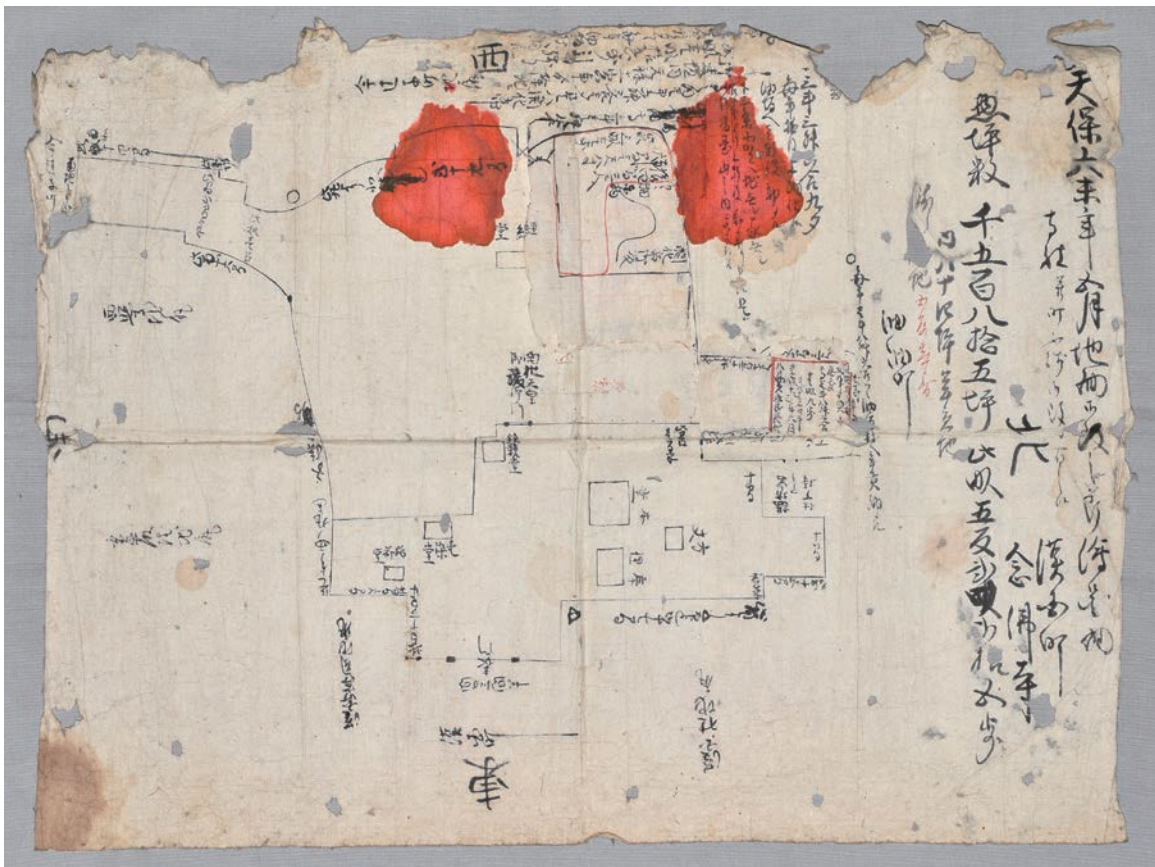
服部 光真

奈良市漢国町に所在する念仏寺は、琉球伝道や『琉球神道記』など数多くの著作で知られる近世初頭の学僧・袋中良定が元和八年（一六二二）に創建した浄土宗寺院である。奈良・南山城を活動舞台とした袋中晩年の拠点の一つであり、著作『降魔山善光寺舍利塔記』の自筆本をはじめとする遺墨や所用具、手沢本など袋中所縁の文化財が今も多く伝来している。

現在、境内西隣には念仏寺山古墳（開化天皇陵に治定）があるが、当初はここも念仏寺境内で、「弘法山」と呼ばれたこの山の上には経蔵や墓地が営まれていた。この古墳が現状の前方後円墳状に整備・造営されたのは文久の修陵のときであり、その際に山全体が大掛かりに改変されたことは伊達宗泰氏や上田長生氏によってすでに明らかにされている¹⁾。修陵の実態を生々しく知りうる陵墓研究史上の重要事例の一つに位置付けられよう。

筆者らは一般共同研究「中・近世畿内寺院史料の調査・研究と研究資源化―般若寺および念仏寺を中心とする―」で実施した念仏寺所蔵文書の悉皆調査において、境内や「開化天皇陵」を描いた近世・近代の絵図を複数確認した。すでに伊達氏により紹介された絵図もあるが、近世・近代の陵墓研究においても重要な史料であるため、改めてここにまとめて紹介する。

史料1は「天保六未年五月地面御改之節絵図面」とあり、天保六年（一八三五）の検地の際に作成され、明細帳に添えられた境内図の控えで、修陵前の近世念仏寺境内の状況を知りうる貴重な絵図である。北端の油坂町屋敷地の買得地や、北西の元禄十一年（一六九八）の修陵の際に設定された「御陵垣内」の除地が朱線で囲まれ、詳細な注記があるのは、検地を契機とするこ

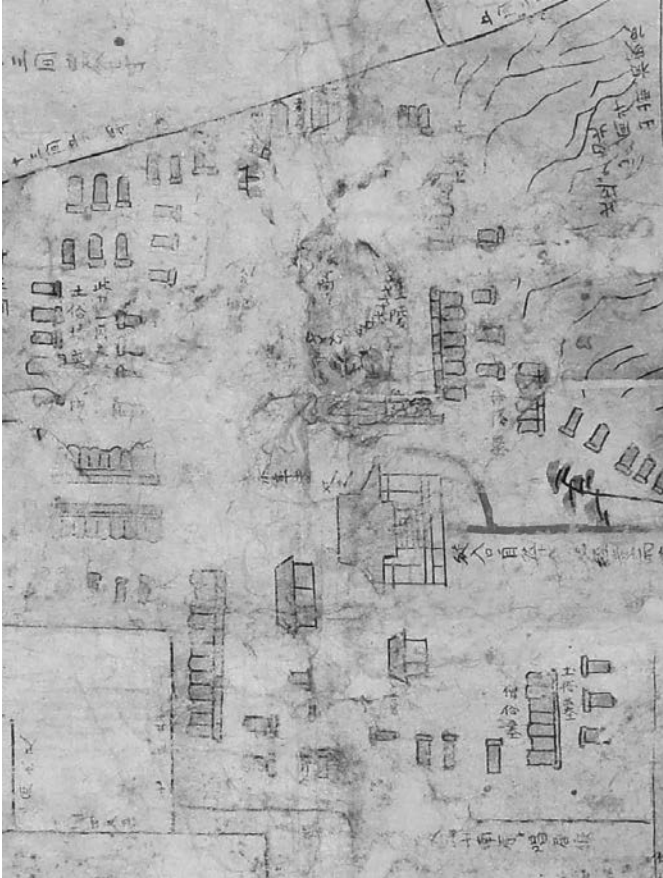


史料1 天保六未年五月地面御改之節絵図面（縦三三・四厘×横四四・二厘）

の絵図の作成事情をよく反映している。

境内東側には寛永七年(一六三〇)造立の本堂(現存)、明暦二年(一六五六)造立の鐘樓堂、寛文三年(一六六三)造立の愛染堂、元禄二年(一六八九)造立の表門(現存)、享保五年(一七二〇)造立の稲荷堂などが描かれている。現在では失われた建物も多いが、他の古文書や棟札の情報ともよく対応しており、袋中以来の伽藍整備によって確立した近世念仏寺の寺観をよく示している。

境内西側に弘法山が描かれるが、「開化帝御陵」とされているのが山上の円丘部分のみであるのは元禄期の治定に基づいている。当時、山上には袋中蒐集の一切経を納める経蔵もあったが、文久の修陵に際しては円丘部分のみでなく、経蔵のあった部分を含む弘法山全体が開化陵に治定されて大掛かりに整備されることになるのである。ただし、すでに「開化天皇御陵御門」と塀で境内内部を区切り、弘法山を区別する認識はあったようである。



史料2のうち弘法山の山上部分拡大(中央の大きな建物が経蔵)

史料2は、文久の修陵で陵墓用地として接収される土地の範囲を朱線で示す絵図で、伊達氏により紹介された。下部に住持真譽や講中、町役人らの署判の写しがあり、本絵図は念仏寺側で作成され、提出された控えとみられる。接収地を示す朱線は、そのまま新たに造営された「開化陵」の形を呈している。下図には修陵以前の念仏寺境内や今辻子町、油坂町の町屋、田畑の様子が描かれており、現状の古墳が、文久の修陵に際して周辺の景観をいかに大改変して新造されたかが見て取れよう。

修陵前、山上には経蔵のほか開山の檀越である久松松平定勝の供養碑や、「土俗墓」「僧俗墓」(僧侶や檀家の墓塔、無縁墓)が林立し、墓地が一带に営まれていた。文久の修陵では、この経蔵や墓地が境内東側の代替地に移され、山全体が現状の前方後円墳状に大改変されたのである。念仏寺文書からは、移転先の墓地の配置計画図や、修陵直後の元治元年(一八六四)の念仏寺と開化天皇陵を描いた絵図、明治期の開化天皇陵図なども確認されている。それぞれ文久の修陵の実態やそれに伴う景観の変化、修陵後の陵墓の管理などについて豊富な情報を含んでいる。

これらの絵図の一部は、元興寺特別展「袋中上人と山の寺念仏寺」(二〇二二年一〇月二二日～十一月一日)および奈良市史料保存館企画展「山の寺」念仏寺と江戸時代の奈良町(一〇月一八日～十一月三日)で紹介している⁽²⁾。また、念仏寺文書の全体の概要については共同研究の成果報告書を刊行し、報告する予定である。

註

(1) 伊達宗泰「開化陵(念仏寺山・坂ノ上山・弘法山古墳)は前方後円墳なのだろうか」(『古代学研究』一五〇号、二〇〇〇年)、上田長生「聖域」の形成(同著『幕末・維新期の陵墓と社会』思文閣出版、二〇一二年、初出二〇〇二年)。以下の叙述でも念仏寺文書のほか、両論文の成果に拠ったところがある。

(2) 図録を兼ねた書籍として、念仏寺・元興寺文化財研究所編『袋中上人と山の寺念仏寺』(なら文化交流機構、二〇二二年)を刊行した。

(服部光真・公益財団法人元興寺文化財研究所主任研究員/東京大学史料編纂所共同利用・共同研究拠点共同研究員)